

ソフトボール



年 組 ()

ススムは、夏休みに行われるソフトボールの練習にはげんでいた。

大会の日が近づいてきたので、となり町のチームと練習試合をすることになった。コーチが言った。

「いいか、今日の3時にグラウンドに集合だ。絶対におくれちゃダメだぞ！」

帰り道に、友達はススムに声をかけてきた。

「ススム、ピッチャーはお前だけなんだから、絶対におくれないでくれよ。」

「もちろん、分かってるよ！」

ススムは、返事をして家に帰った。

家に着くと、お母さんが急いで身支度をしていた。

「ススム、おかえり！ ちょっと、お母さん出かけてくるから、ユアちゃんの子守をお願いするわね。」

ユアちゃんというのは、まだ1さいの妹だ。

「ええっ——。でも、ぼく、3時からソフトボールの試合なんだけど。」

「だいじょうぶよ、そのころには帰って来るから。よろしくね。」

そう言って、お母さんは出て行ってしまった。

2時になった。お母さんはまだ帰ってこない。

2時40分。いよいよ心配になってきて、お母さんにメールを送ってみる。

返事が来ない。ススムは、そわそわとして落ち着かなかった。

とうとう、3時になってしまった。

「どうしよう——。ぼくがいないと、試合は始まらない。でも、ユアちゃんも置いておくことはできない。こんな暑いグラウンドに連れていくこともできないし——。」



ススムは、どうするべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

話し合っ考えたことを書きましょう。
